

## 日常異変 コロナの私(14)

新型コロナウイルス感染症で何が変わったか、

何を変えるべきか(その2)

Go To Travel キャンペーンは東京発着を除いて予定通り実施する方針のようですが、本当にそれで良いのでしょうか。感染症対策と経済活動。そのバランスをどうすればよいのでしょうか。



新型コロナウイルスはなくなる

最初に留意したいことを書きます。まず、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)がなくなることは期待できないということです。

次に、コロナがどんな病気かまだわかっていません。謎の病気に対して、社会として対応していくしかないのです。この点は、後で少し触れます。

## 政府の第2波対策ガイドラインはどうなっているか

Go To Travel キャンペーンはどうしたらいいのでしょうか。前回も触れましたが、政府は6月19日の「新型コロナウイルス感染症の医療提供体制確保のための新たな流行シナリオ」で、10万人当たりの新規感染者数が2.5人/週となった日を基準日として、社会への協力要請を行うことを都道府県に求めています。

東京都は6月29日に2.5人/週を超えました。「3～5月に実際に行われた協力要請と同等の効果を有する」要請が必要です。超えているのは東京だけなのか、厚生労働省の集計(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000629000.pdf>)で計算してみました。

10万人当たりの週新規感染者数(7月15日現在)

東京都	9.50	茨城県	0.72	三重県	0.22	福島県	0.11
埼玉県	3.23	兵庫県	0.56	滋賀県	0.21	岡山県	0.10
千葉県	2.39	宮城県	0.52	鳥取県	0.18	富山県	0.09
奈良県	2.27	北海道	0.49	宮崎県	0.18	岩手県	0.00
鹿児島県	2.19	広島県	0.46	青森県	0.15	秋田県	0.00
神奈川県	2.15	福井県	0.38	島根県	0.15	石川県	0.00
京都府	2.15	群馬県	0.30	長野県	0.14	山口県	0.00
和歌山県	2.07	香川県	0.30	高知県	0.14	愛媛県	0.00
大阪府	1.81	岐阜県	0.29	新潟県	0.13	佐賀県	0.00

長崎県	0.95	山形県	0.27	愛知県	0.13	熊本県	0.00
福岡県	0.84	沖縄県	0.27	徳島県	0.13	大分県	0.00
栃木県	0.76	静岡県	0.24	山梨県	0.12	全国	1.91

東京はもう 9.5 人/週/10 万人まで増えています。埼玉県も 7 月 8 日に超えていました。報道によると千葉県も 7 月 16 日に超えました。他の県も心配ですね。

ガイドラインは、超えて即座に協力要請することを求めるものではありませんが、これまで移動を抑制してきたこの数字だったのです。移動を促進する Go To Travel キャンペーンによって、感染はさらに拡大するでしょう。少なくとも埼玉県や千葉県を Go To Travel キャンペーンの対象とするのは、明らかに政府のガイドラインに反しているように思います。

### 安心して経済活動を行うためにはどうすれば良いか

では、旅行や出張をはじめとした経済活動と、感染防止を両立させるにはどうすれば良いのでしょうか。

要するに、感染する可能性を今より増やさなければ良いのです。表を見てください。いくつかの県の感染状況が同じであることがわかります。同じ感染状況の県にお互いに旅行しても、それほどリスクは増えないでしょう。

Go To Travel キャンペーンの対象を、感染状況が同じ都道府県間に限れば良いのです。感染状況が同じ所がなくても、その都道府県内の旅行なら対象になります。実際の運用上は、どの時点で判定するかとか、感染状態がごく近いところも対象でないのか、などを決めなければならないでしょうが、少なくとも、国民の税金を使ってコロナの感染を拡大する心配はなくなります。

それ以外の旅行は自粛してほしいわけですが、あくまで自粛です。お金を払ってまでやってほしいわけではないというだけです。

毎日、10 万人あたりの感染者数を計算してくれているサービスもあります。

<https://news.yahoo.co.jp/story/1717>

## 本当にそれだけで良いのでしょうか

いま東京は相対的に危険です。コロナに感染する可能性が他府県より高いからです。だから感染しない手立てを講じます。マスクをしたり、消毒したり、外出を減らしたりしているのです。

でも、ここでよく考えてみましょう。国内の感染者総数は2万数千人です。多のように思いますが、国民のわずか0.02%です。しかもすでに2万人近くが治癒して退院しています。潜在的な感染者もいるでしょうが、現時点の保因者総数は0.01%もないかもしれません。その0.01%を恐れて、99.99%の国民が、困窮しているのです。これは何かがおかしいと考えるべきです。

よく考えると、東京の住人だからといって、保因者じゃなければ、他府県に行つてはいけないということはないはずです。

感染状況がより低い地域を訪問する場合は、保因者ではない証明を求めればよいのです。当然 Go To Travel キャンペーンの対象にしても問題ありません。

では、保因者ではないことをどうやって証明するのでしょうか。まず PCR 検査があります。直近の PCR 検査が陰性で、その後の行動履歴が安全であることを証明できれば、自由に出かけることができます。

ただ問題は「その後の行動履歴が安全であること」をどうやって証明するかです。

## 「COCOA」の活用を考えるべき段階です

「行動履歴が安全であること」を証明する手段に、スマートホンに入れて使う「COCOA」（新型コロナ接触確認アプリ）があります。過去14日間に接触した相手に、感染が確認された人がいないか、確認できるアプリです。

COCOAで14日間の安全が確認できれば、PCR検査も不要です。ただ、実際に効果を発揮するには、多くの人々が利用している必要があります。

Go To Travel キャンペーンの対象になるには、COCOAを利用していることを条件にすれば良いのです。スマホを持っていない人には義務付けませんが、その多くは高齢者なので、コロナのリスクが高い人達です。それでも旅行するなら、ご自分のリスクで旅行していただいて良いと思います。

飲食店やイベントの主催者も、コロナ感染が心配だと思います。COCOAで感染していないことを証明することを、入場の条件にすれば良いのです。もちろ

ん最初のうちはあまり効果がないでしょうが、この方法で必ずCOCOAは普及します。普及すれば、大きな効果を発揮します。

### 人権と社会的利益の問題

感染症対策には、どうしても人権を制限する部分があります。例えば、感染が確認されたら、病院に閉じ込められて自由を奪われます。しかし感染がわかっていて、自由に出歩くということは、周りの人を感染させて命を奪う危険性があるわけですから、自由を奪うことは社会的に正当化されているわけです。

COCOAに関しては、データが政府に悪用される危険があると考える人もいます。実際には、スマホのOSメーカーがオープンソースで開発しているので、その可能性は少ないのですが、技術的にはプライバシーを侵害するコードを潜ませることは不可能ではありません。以下は、厚生労働省のCOCOAのページです。

合原亮一

# 新型コロナウイルス接触確認アプリ (COCOA) COVID-19 Contact- Confirming Application

- お知らせ
- アプリのインストール方法
- 注意事項
- 接触確認アプリの概要
- ポスター・チラシ
- アプリ利用者向けQ&A
- 接触確認アプリ 利用規約
- 接触確認アプリ プライバシーポリシー
- 接触確認アプリの仕様書等
- アプリに関するこれまでの更新情報

## お知らせ

### アプリに関するこれまでの更新情報は[こちら](#)

- ▶ 7月13日にiOS版、7月14日にAndroid版の修正版「1.1.2」の配布を開始しました。「1.1.2」による修正は、接触確認アプリに陽性者として登録を行う際、正しい処理番号を入力しても登録することができない事象を解消するものです。アプリをご利用の方は、App StoreまたはGoogle Playから「接触確認アプリ」を検索いただき、アップデートをお願いします。
- ▶ 処理番号の発行については、7月11日から一時的に停止させていただいていましたが、15日より再開しています。
- ▶ ダウンロード数は、7月16日17:00現在、合計で約726万件です。
  - ・iOS、Android両方の合計の数になります。
  - ・ダウンロード後に削除し、再度ダウンロードした場合は、複数回カウントされる場合があります。
- ▶ 陽性登録件数は、7月16日17:00現在、合計で16件です。
- ▶ 接触確認アプリ(COCOA)は公開日(6月19日)から1ヶ月間は試行版のため、デザイン・機能などの修正を予定しています。
- ▶ **保健所から発行された処理番号をアプリに入力しても登録できない場合は、処理番号を発行した保健所にご連絡ください。アプリをアンインストールをすると、過去の接触記録が失われるため、アプリをアンインストールしないようご注意ください。**

コロナの最初のピークは、緊急事態宣言で国民の行動を自粛することによって下火になりました。この時は、何が起きているか、どの程度保因者がいるか、そうしたことは推計するしかありませんでした。だから、安全のために行動を自粛するしかなかったのです。社会全体として、大きな損失が出ました。

しかし今は状況が違います。コロナを下火にすることができることは確認できました。99.99%の人同士がコロナ以前と同じ活動をして、感染の心配はありません。問題は自分が感染していないことをどうやって確認するかですが、COCOAという、それを証明する手段があるのです。

スマホの利用者全員にCOCOAの利用を強制することは難しいかもしれませんが、特定の経済行為に、その利用を求めることはできると思います。私は発

表された日にインストールしました。利用したくない人は、補助金を申請しなかったり、イベントに参加しなければよいのです。または自分で PCR 検査を受ければよいのです。

### 経済を止めずに感染を抑えるには

コロナを抑えるには、感染者を見つけて、隔離して治療するしかありません。そのための PCR 検査の実施数が、日本は少ないという批判があります。もちろん検査は多い方が良い。しかしリソースには限りがありますから、検査を増やせば、その分医療のどこかが減ることになります。

しかしCOCOAはソフトですから、数を増やすコストはほとんどありません。そして感染の可能性のある人を見つけることができます。PCR 検査を増やすべきだと思っている人は、COCOAをインストールするべきではないでしょうか。00

Android 版

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.go.mhlw.covid19radar>

ios 版

<https://apps.apple.com/jp/app/id1516764458>

### いろいろな意見に右往左往しないために

これまでに取られた対策とか、出された意見に対する批判が、ネットにもメディアにも溢れているように思います。意見を述べるのは自由ですが、念頭に置いてほしいのは、誰も知らない新しいウイルスが現れたということと、そのウイルスの詳しいことはまだわかっていないということです。今後どう変異するかも全く謎です。人類はそんな状況で闘っているのです。

動物から感染するウイルスなので、野生動物全てはコントロールできないので、ウイルスの絶滅は困難です。コロナがなくなる期待はできません。

いろいろな意見を参考にしてもよいですが、明日は別の事実がわかるかもしれません。だから目の前の事実、数字だけを見ましょう。そして今日コロナに対してできることを実行しましょう。それがコロナを抑える道だと思います。

2020年7月17日 合原亮一